

吹田第三幼稚園及び東保育園の幼保一体化について

1 概要

令和9年（2027年）4月に、園児数が減少している吹田第三幼稚園と、施設の老朽化が進む東保育園を統合し幼保一体化施設とするため、令和8年度（2026年度）に東保育園の大規模修繕を実施するものです。

2 現状

(1) 公立幼稚園における園児数の推移（表1参照）

本市の公立幼稚園（幼稚園型認定こども園除く。以下同じ。）は5園あり、各園とも4・5歳児で一つの学級を編成する異年齢児学級保育を実施していますが、少子化や社会ニーズの変化から、公立幼稚園の園児数は全園において減少傾向にあります。その中でも吹田第三幼稚園は園児数が特に少なく、令和4年度（2022年度）以降、20人以下となる状況が続いており、令和6年度（2024年度）では11人まで減少しています。

(2) 本市における就学前児童数の推移

少子化の影響により、就学前児童数は減少傾向ですが、社会ニーズの変化から、就労家庭など長時間保育を希望する家庭は増加しており、保育所等利用児童数も増加傾向にあります。

一方で、幼稚園等についてはニーズが低下しており、幼稚園等利用児童数は大きく減少しています。

(3) 私立園の状況

市内幼稚園等利用児童の約9割が私立園を利用していますが、公立園と同様、園児数は減少傾向で、定員に空きが生じている状況であるため、市内の私立幼稚園等により、受け皿を十分に満たすことができる状況と考えられます。

3 課題と幼保一体化を行う理由

(1) 吹田第三幼稚園の園児数減少への対応

吹田第三幼稚園については園児数が減少しており、教育・保育環境として、一定規模の集団を形成することができず、幼児教育の目的の一つである集団での学び合いが難しくなっています。

同中学校区にある東保育園と統合することにより、一定規模の集団形成が可能となります。

(2) 東保育園の老朽化への対応

東保育園については築52年を経過しており、施設の老朽化が進んでいることから、令和8年度に大規模修繕を実施する予定です。

大規模修繕に合わせ、4歳児室の拡張を行うことで、一定の1号認定児の入所枠を設けます。

(3) 保育人材の体制整備

保育人材の確保が課題となっている中で、効率的な職員配置を行うことにより、保育ニーズに
応える体制整備を行うことが可能となります。

(4) 幼保連携型認定こども園としての利点

保護者の就労状況等により2号認定に該当しなくなった場合でも、1号認定児として、同じ園
に通園することが可能となります。

4 定員(案)

110～120名程度

(参考) 令和6年度(2024年度)の状況

現在の定員：東保育園112名、吹田第三幼稚園100名 計212名

在園児数(※)：東保育園102名、吹田第三幼稚園11名 計113名

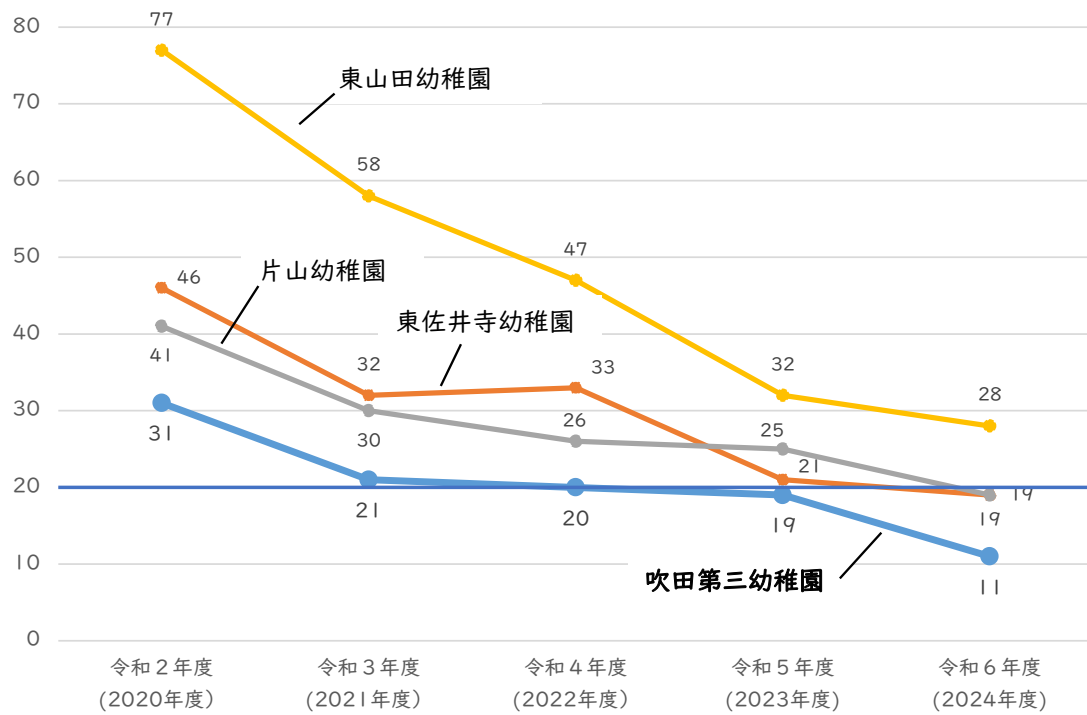
(※) 東保育園は4月1日時点、吹田第三幼稚園は5月1日時点

5 今後のスケジュール

令和7年(2025年)2月定例会	設計予算計上
令和7年度(2025年度)	実施設計業務
令和8年(2026年)2月定例会	工事予算計上 条例改正
令和8年度(2026年度)	東保育園改修工事
令和9年(2027年)4月1日	東保育園・吹田第三幼稚園の統合及び幼保連携 型認定こども園移行

表1 公立幼稚園における園児数の推移（各年5月1日時点）

単位：人



※南山田幼稚園については、令和7年度（2025年度）から山田保育園と統合し、幼保連携型認定こども園に移行する予定であるため、表1（グラフ）から除外しています。

参考 吹田第三幼稚園及び東保育園の周辺地図

